

臨時総会(第8回)・理事会(第29回)開催

「令和4年新春経済講演会」盛況開催

日時:令和4年1月20日(金)15:00～ 於:ANA クラウンプラザホテル秋田 4F「シリウス」

令和4年1月20日(木)15:00よりANAクラウンプラザホテル秋田を会場に第8回臨時総会、第29回理事会を開催。終了後、賀詞交換会中止も新春経済講演会を開催した。(講師 日本銀行秋田支店長 真鍋隆氏)今回の臨時総会は、空席となった理事1名、監事2名、幹事4名の候補者の承認。提出議案は原案どおり承認された。



湊屋会長総会挨拶



・臨時総会での湊屋会長の挨拶

新年あけましておめでとうございます。

本日はJRの一部路線の運転中止や県北を中心に道路の通行止めが発生するなど交通網に乱れが生じている中、大勢の会員の皆様にご出席いただき誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染第5波の猛威に晒されました昨年は、前年に引き続き厳しい年でありましたけれど、11月にはいったんは収束といってもよい状況となりました。今またオミクロン株の出現により深刻な事態となっておりますが、一方でオミクロン株自体の重症化率が低いとされていること、またワクチン3回目接種の前倒しあるいは医療体制の見直し、検査体制の充実等の進展によりまして行動制限と社会経済活動のバランスを考慮するという意識が徐々に浸透してきているように感じております。コロナとの共生を考えていく「ウィズコロナ」への取組みを加速させていく時期に差し掛かってきたのではないかと考えているところでございます。

経済に目を移しますと前年7～9月期の実質GDP成長率が前期比でマイナス0.9%、年率換算ではマイナス3.6%となるなど新型コロナウイルスの影響が色濃く影を落としております。その要因としていろいろあるわけですが、サプライチェーンの問題、半導体不足による自動車等の生産減少に加え個人消費の落ち込みがあります。緊急事態宣言が繰り返されたことにより飲食、旅行などの接触型サービスが低迷し、GDPの半分以上締める個人消費は前期比マイナス1.3%となりました。

こうして迎えた新年であります。GDPの6割近く占めております個人消費の拡大を始め、今年こそ経済を回復、反転させる年にしたいと強く願っております。

菅内閣の後を受けて発足した岸田内閣は、経済政策として「成長と分配の好循環による新たな資本主義」を掲げ、経済成長によって得られた果実を適切に分配していくことを目指しております。これを企業経営に置き換えますと、生産性向上により事業活動で創り出す付加価値を増加させるとともに、その成果を従業員と分かち合うということになります。政府の掲げる「成長と分配の好循環」を実現させるためには両輪の一方である成長が前提となるように、企業にとって前提となるのが生産性の向上であり、そのためには、従業員の能力が十分に発揮される活力ある組織でなくてはなりません。そしてそのことが、また事業革新を促し、さらには優秀な人材の確保にもつながっていくものと考えております。

会員企業様が、生産性の向上に向け、それぞれの経営課題に果敢に取り組み、ますますのご発展を遂げられますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(会長挨拶を一部抜粋し、掲載いたしました。文責：協会事務局)

新役員をつぎのとおり。

役職名	支部名	新任者名	所属企業名
理事	由利支部	菊地 聖一	TDK(株)秋田・庄内総務部長
監事	秋田支部	堀井 啓一	秋田県信用保証協会会長
監事	秋田支部	佐々木利幸	(株)秋田グランドリース代表取締役社長

役職名	支部名	新任者名	所属企業名
幹事	能代支部	佐藤 雅樹	東北電力(株)能代電力センター 所長
幹事	秋田支部	善 英喜	三菱マテリアル(株)秋田製錬所 所長
幹事	由利支部	石上 靖晃	(株)北都銀行本荘支店 支店長
幹事	仙北支部	笹木 宣幸	東北電力(株)大曲電力センター 所長



菊地新理事



堀井新監事



佐々木新監事

第29回理事会 出席者10名 5F「スピカ」

理事会は、新会員の承認と会長・専務理事の職務執行報告を審議し、承認した。
新規会員は次のとおりです。

支部名	会員企業名	代表者名	役職名
秋田支部	加藤建設(株)	加藤 俊介	代表取締役会長
秋田支部	羽後日産モーター(株)	佐藤 健己	代表取締役社長
由利支部	(有)タカハシ印店	高橋 徳之	代表取締役



新春経済講演会 日本銀行秋田支店長 真鍋 隆 氏

演題 「2022年の秋田の経済展望」



・臨時総会に引き続き新春経済講演会が開催されました。講師は日本銀行秋田支店長の真鍋 隆氏。演題は「2022年の秋田の経済展望」。当日は、大雪の影響から電車の運休、県北での道路通行止め等あったものの秋経協会員77名が参加、熱心にメモをとる方、ポイントを聞き逃すまいとPCを操作しながら聞き入る方等見受けられ、盛会な講演会となりました。真鍋支店長の経済講演は、とても分かりやすいと好評でしたが、秋田をコロナにめげず不透明感のある時代をどう発展させていくか会員各位の果敢な取り組みが期待されます。

講演では初めに各地域の景気の総括判断が示された。昨年10月と今年1月の判断を比較し、全国的に10月の横ばい、一服感から1月は持ち直しと判断されるも、新変異株オミクロン株の状況が景気に与える影響を注視する必要があると指摘。次に世界で今、何が起きているのかを米国、ユーロ圏、中国、新興国を様々な指標を使い現状を解説した。これを踏まえ、2022年の日本の経済、秋田の経済見通しがどうなるのか見解を述べた。

秋田の経済見通しについては、経済の回復時期は景気判断が「持ち直し」と判断、業況判断D.I推移から年度半ばにはコロナ前の水準と推測するが、全国同様オミクロン株の拡大影響を注視する必要がある。特に気にすべきはコロナ変異株、交易条件悪化(物価・価格の転嫁等)への対応であるとした。

最後に、秋田のビジネスホテル稼働率が2か月連続全国1位、秋田新幹線も最近ほぼ満席であり、その背景の一つに風力発電関係者の秋田訪問があると聞いている。2021年ダボス会議でテーマとなった世界的な「グレートリセット」が洋上風力発電事業の本格化を通して、秋田の起爆剤になる可能性があり、秋田の風を「厄介者」と思わず想像をたくましくして経済効果をつかむ行動をすることを期待すると述べ、約1時間の講演を終えた。



真鍋 日本銀行秋田支店長

